

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-34772
(P2002-34772A)

(43) 公開日 平成14年2月5日 (2002.2.5)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード [*] (参考)
A 4 7 G	29/122	A 4 7 G 29/122	B 2 E 2 5 0
E 0 5 B	49/00	E 0 5 B 49/00	B 3 K 1 0 0
	65/00	65/00	V

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2000-226032 (P2000-226032)
(22) 出願日 平成12年7月26日 (2000.7.26)

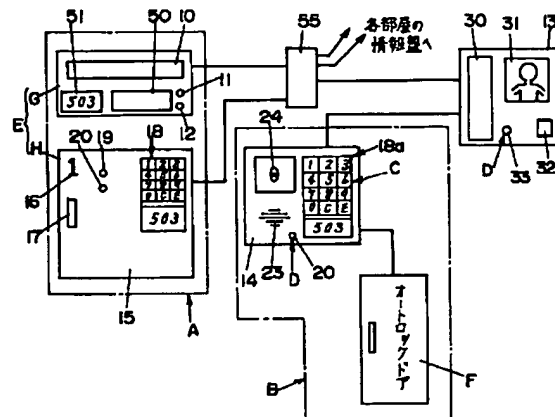
(71) 出願人 000005832
松下電工株式会社
大阪府門真市大字門真1048番地
(72) 発明者 上田 滋之
大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内
(74) 代理人 100087767
弁理士 西川 恵清 (外1名)
Fターム (参考) 2E250 AA04 AA09 AA18 BB05 BB09
BB61 BB63 CC21 DD01 DD02
EE02 FF06 FF44
3K100 CA43 CA45 CA52 CC05 CD01
CD03

(54) 【発明の名称】 配達物の受け取り報知システム

(57) 【要約】

【課題】 配達物収納ボックス内の配達物の有無をドアの解錠操作だけで自動的に確認できる。

【解決手段】 集合住宅の共用の場所Aに、各部屋ごとに郵便物や宅配物など配達物を受け取るための配達物収納ボックスE群を設ける。集合住宅の共用の出入口Bに、オートロック施錠式のドアFと、ドアFを解錠するためのドア解錠手段Cとを設ける。ドア解錠手段Cの近傍に、ドアFを解錠操作したときにその解錠操作によって特定される部屋に対応する配達物収納ボックスE内の着荷状況を知らせるための着荷報知手段Dを設ける。



A 共用の場所
B 共用の出入口
C ドア解錠手段
D 着荷報知手段
E 配達物収納ボックス
F ドア

BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 集合住宅の共用の場所に、各部屋ごとに郵便物や宅配物など配達物を受け取るための配達物収納ボックス群が設けられると共に、集合住宅の共用の出入口に、オートロック施錠式のドアと、ドアを解錠するためのドア解錠手段とが設けられ、上記ドア解錠手段の近傍に、ドアを解錠操作したときにその解錠操作によって特定される部屋に対応する配達物収納ボックス内の着荷状況を知らせるための着荷報知手段を設けたことを特徴とする配達物の受け取り報知システム。

【請求項2】 個建て住宅に、電気錠付きのドアと、ドアを解錠するためのドア解錠手段と、郵便物や宅配物など配達物を受け取るための配達物収納ボックスとが設けられ、上記ドア解錠手段の近傍に、ドアを解錠操作したときに配達物収納ボックス内の着荷状況を知らせるための着荷報知手段を設けたことを特徴とする配達物の受け取り報知システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、配達物の受け取り報知システムに関し、詳しくは例えば集合住宅の共用の場所に設置されている配達物収納ボックス群の個々の着荷状況を、オートロック施錠式のドアの解錠操作をした住人に知らせることができるようにした配達物の受け取り報知システムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年、集合住宅用設備として、集合住宅の共用の場所に、各部屋ごとのポスト群以外に、宅配物を受け取るための宅配ボックス群の設置が普及しつつある。また、防犯面から、集合住宅の共用の出入口にオートロック施錠式のドアの設置が普及しつつあり、住人だけがドア解錠手段によってドアを解錠して建物の中に入ることができるようにしている。さらにインターホン或いはカメラ付きインターホン機能を備えた情報盤（部屋番号入力式住人呼出装置など）も普及しつつある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが、オートロック施錠式のドアの普及に伴い、住人以外の人、例えば宅配業者が各部屋まで入ってくることができなくなるため、配達物を受け取る方法として、集合住宅の共用の場所に設置されている宅配ボックスを利用することが多くなる。このため従来では、住人は宅配ボックスが設置されている場所まで足を運んで、配達物の有無を確認しなければならなかった。殊に、配達頻度の多い郵便物の取り忘れは少ないが、配達頻度の少ない宅配物では取り忘れが生じやすいという問題もあった。

【0004】本発明は、上記の従来例の問題点を鑑みて発明したものであって、その目的とするところは、配達物収納ボックス内の配達物の有無をドアの解錠操作だけで自動的に確認でき、配達物収納ボックスまで足を運

んで着荷状況を確認する必要がなく、無駄な確認を行ったり、配達物を取り忘れたりするのを防止できる配達物の受け取り報知システムを提供するにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために本発明にあっては、集合住宅の共用の場所Aに、各部屋ごとに郵便物や宅配物など配達物を受け取るための配達物収納ボックスE群が設けられると共に、集合住宅の共用の出入口Bに、オートロック施錠式のドアFと、ドアFを解錠するためのドア解錠手段Cとが設けられ、上記ドア解錠手段Cの近傍に、ドアFを解錠操作したときにその解錠操作によって特定される部屋に対応する配達物収納ボックスE内の着荷状況を知らせるための着荷報知手段Dを設けたことを特徴としている。

【0006】また本発明にあっては、個建て住宅に、電気錠J付きのドアFと、ドアFを解錠するためのドア解錠手段Cと、郵便物や宅配物など配達物を受け取るための配達物収納ボックスEとが設けられ、上記ドア解錠手段Cの近傍に、ドアFを解錠操作したときに配達物収納ボックスE内の着荷状況を知らせるための着荷報知手段Dを設けたことを特徴としている。

【0007】このように構成することで、ドアFの解錠操作だけで、自動的に配達物の有無を確認でき、配達物収納ボックスEまで足を運んで着荷状況を確認する必要がなくなる。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明を添付図面に示す実施形態に基づいて説明する。

【0009】図1は、集合住宅における配達物の受け取り報知システムの一例を示している。

【0010】集合住宅の共用の場所Aには、各部屋ごとに郵便物や宅配物など配達物を受け取るための配達物収納ボックスE群が設けられている。ここで、配達物収納ボックスEとは、郵便物を受け取るためのポストGと、宅配物を受け取るための宅配ボックスHとを含む概念であり、これらポストGと宅配ボックスHとが各部屋ごとに個別に対応して設置されている。

【0011】ポストGには、表札50、部屋番号表示部51、郵便物の投入口10が設けられると共に、押し釦11と、この押し釦11を押したときに点灯するLED等の表示ランプ12とが設けられている。図2の例では、集合住宅のエントランス部の壁に部屋と同数のポストG群が設置されており、郵便配達人はドアFを解錠して建物内部に入り、ポストGに投函した後に、押し釦11を押すことによって、郵便物を入れたことを示す表示ランプ12を点灯させる。このとき押し釦11からの配達物が届いたことを示す信号がコントローラ55を介して屋内情報盤13及び屋外情報盤14にそれぞれ送られるようになっている。

【0012】宅配ボックスHには、その前面に施錠付き

前面扉15が設けられ、前面扉15には鍵穴16、把手部17が設けられると共に、部屋番号を入力するためのテンキー18と、押し釦19と、この押し釦19を押したときに点灯するLED等の表示ランプ20とが設けられている。図2の例では、宅配ボックスHの前面を屋外側21に向け、背面を建物内部に向けるようにして、部屋と同数の宅配ボックスH群を建物の壁22に設置してある。宅配ボックスHの背面には宅配物を取り出すための取り出し用扉(図示せず)が設けられており、住人は宅配ボックスH内の宅配物を建物内部から取り出せるようにしてある。宅配業者は屋外側21から宅配ボックスHの前面扉15を開いて宅配物を投函した後に、押し釦19を押すことによって、宅配物を入れたことを示す表示ランプ20を点灯させる。このとき押し釦19からの配達物が届いたことを示す信号がコントローラー55を介して屋内情報盤13及び屋外情報盤14にそれぞれ送られるようになっている。なお、宅配ボックスHの押し釦19は、宅配ボックスHの前面扉15を施錠するための施錠釦として兼用するのが望ましい。この場合、宅配物を知らせるための押し釦19を利用して、前面扉15の施錠ができるようになり、宅配物の盗難防止に効果的となる。

【0013】集合住宅の共用の出入口Bには、オートロック施錠式のドアFと、インターホン機能付き屋外情報盤14とが設けられている。この屋外情報盤14は、出入口付近の屋外側21の壁面22aに取り付けられており、インターホン用のスピーカー23、カメラ24を備えていると共に、ドアFを解錠するための住人用のドア解錠手段Cと、住人に配達物の着荷状況を知らせるための着荷報知手段Dとを備えている。

【0014】ここでは、上記ドア解錠手段Cは、暗唱番号の入力によりドアFを解錠するためのテンキー18aを備えた暗唱番号入力装置で構成されているが、これには限定されず、例えばカード或いは鍵などを用いて解錠操作するものであってもよいものである。上記着荷報知手段Dは、例えばLEDなどの表示ランプ20からなり、住人が帰宅したときにドアFを開けるために屋外情報盤14のテンキー18aに暗唱番号を入力すると、配達物が届いているときだけ、表示ランプ20を点灯(或いは点滅)させて、その住人に知らせるようになっている。なお、ランプによる表示には限らず、ブザーなどの報知音であってもよく、報知の手段は特に限定されない。

【0015】しかし、帰宅した住人がドアFを解錠するために、暗唱番号をテンキー18aで入力すると、自動的に着荷報知用の表示ランプ20が点灯等して、配達物(郵便物や宅配物)があることがわかる。これにより、住人はドアFの解錠操作だけで、自動的に配達物の有無を確認できるので、いちいちポストGや宅配ボックスHまで足を運んで着荷状況を確認する必要がなく、着

荷されていない場合の無駄な確認を行う必要がないものであり、着荷されている場合の配達物の取り忘れもなくなる。

【0016】また、集合住宅の各部屋には、インターホン機能付き屋内情報盤13(図1)が設けられている。この屋内情報盤13は、部屋の中に取り付けられており、インターホン用の受話器30、モニターカメラ31、オートロック施錠式のドアFを解錠するためのドア解錠釦32を備えていると共に、LEDなどのランプ33からなる着荷報知手段Dを備えている。ポストGの押し釦11或いは宅配ボックスHの押し釦19が押されると、コントローラー55を介して配達物が届いたことを知らせる信号が送られて、ランプ33が点灯(或いは点滅)して、部屋の住人に知らせるものであり、これにより部屋の中にいながらにして、配達物が届いているかどうかの確認ができるようになる。なお、ランプ33による表示には限らず、ブザーなどの報知音であってもよく、報知の手段は特に限定されない。

【0017】図3は個建て住宅の正面図を示し、図4は個建て住宅における配達物の受け取り報知システムの一例を示している。本例では、個建て住宅のドアF(門扉)に、電気錠Jと、この電気錠Jを解錠するドア解錠手段14としてのテンキー18bとが設けられている。塀35には、ポストGと宅配ボックスHとを備えた配達物収納ボックスEが設置されている。また上記テンキー18bが設置される屋外情報盤14には、暗唱番号を入力してドアFを解錠したときに配達物収納ボックスE内の着荷状況を知らせるための着荷報知手段DであるLED等のランプ20が設けられている。なお図4中のイはポストGの押し釦11からの郵便物着荷信号の流れを示し、ロはインターホンカメラ24からの信号の流れを示し、ハは宅配ボックスHの押し釦19からの宅配物着荷信号の流れを示している。他の基本構成は図1の実施形態と同様である。しかし、住人が帰宅した時にドアFを解錠すると、ポストG又は宅配ボックスH内に配達物があるときのみ、屋外情報盤14に設けた着荷報知用のランプ20が点灯して配達物が届いていることを知らせる点は、前記実施形態と基本的に同様であり、前記実施形態と同様な作用効果が得られる。また本例では、屋内情報盤13に設けられる着荷報知手段Dとして、2つのランプ33a、33bを設け、一方のランプ33bをポスト用、他方のランプ33aを宅配ボックス用として使用している。このようにすることで、配達物が郵便物か宅配物かを一目で確認でき、特に郵便物と宅配物の両方が配達されている場合において、宅配物の取り忘れを確実に防止できるようになる。このようにポスト用と宅配ボックス用の2つの着荷報知用のランプ33a、33bを設けることは、図1の実施形態の集合住宅の場合においても同様に実施できるものである。

【0018】

【発明の効果】 上述のように請求項1記載の発明にあつては、集合住宅の共用の場所に、各部屋ごとに郵便物や宅配物など配達物を受け取るための配達物収納ボックス群が設けられると共に、集合住宅の共用の出入口に、オートロック施錠式のドアと、ドアを解錠するためのドア解錠手段とが設けられ、上記ドア解錠手段の近傍に、ドアを解錠操作したときにその解錠操作によって特定される部屋に対応する配達物収納ボックス内の着荷状況を知らせるための着荷報知手段を設けたので、帰宅した住人がドアを解錠すると着荷報知手段によって配達物（郵便物や宅配物）が届いていることがわかるシステムとなり、これにより、住人はドアの解錠操作だけで、自動的に配達物の有無を確認できるので、いちいちポストや宅配ボックスまで足を運んで着荷状況を確認する必要がなく、着荷されていない場合の無駄な確認を行う必要がなく、また配達物の取り忘れもなくなり、使い勝手が向上する。

【0019】 また請求項2記載の発明にあつては、個建て住宅に、電気錠付きのドアと、ドアを解錠するためのドア解錠手段と、郵便物や宅配物など配達物を受け取るための配達物収納ボックスとが設けられ、上記ドア解錠

手段の近傍に、ドアを解錠操作したときに配達物収納ボックス内の着荷状況を知らせるための着荷報知手段を設けたので、請求項1と同様、帰宅した住人がドアを解錠すると着荷報知手段によって配達物（郵便物や宅配物）が届いていることを確認できるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の実施形態の一例の受け取り報知システムのブロック図である。

【図2】 同上の配達物収納ボックス、屋外情報盤、ドアの配置説明図である。

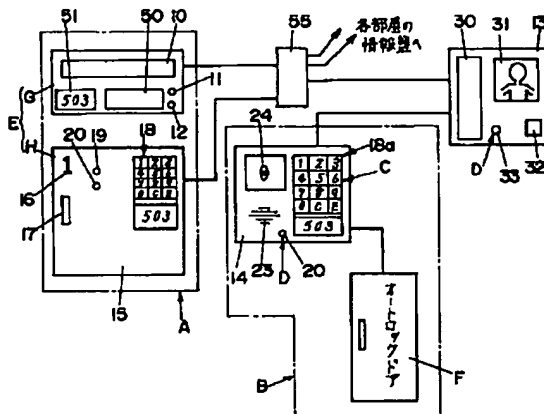
【図3】 他の実施形態の正面図である。

【図4】 図3の受け取り報知システムのブロック図である。

【符号の説明】

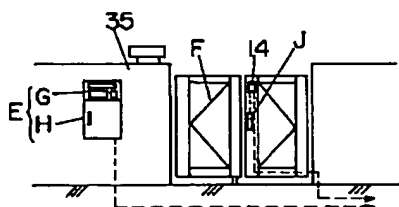
- A 共用の場所
- B 共用の出入口
- C ドア解錠手段
- D 着荷報知手段
- E 配達物収納ボックス
- F ドア

【図1】

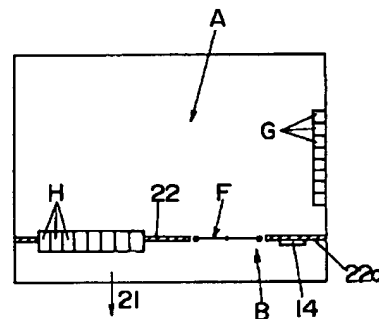


- A 共用の場所
- B 共用の出入口
- C ドア解錠手段
- D 着荷報知手段
- E 配達物収納ボックス
- F ドア

【図3】



【図2】



【図4】

